

ジオサイトマップ



砂丘と湖が作り出す自然と暮らし・大地震の記憶

鳴き砂で知られる琴引浜の砂丘と離湖、丹後砂丘と久美浜湾で示されるような、砂丘と潟湖の組み合わせからなる地域です。砂丘を利用したメロンなどの農産物、久美浜湾のカキの養殖、断層に沿って湧いた多くの温泉などが特徴的です。郷村断層は、1927(昭和2)年に発生した北丹後地震の時に動いた活断層です。



6、琴引浜・離湖ジオサイト

鳴き砂を育んだ地形地質と海岸線 ～鳴き砂・砂丘・潟湖など、砂に関する地形のサイト～

ことひきはま

琴引浜

京都府京丹後市網野町掛津 MAP P.17-①

ひとくメモ

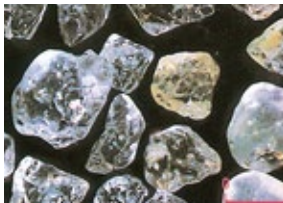
●鳴り砂を守る会の活動

琴引浜の鳴り砂を守る会は1987(昭和62)年に地元住民を中心に設立され、さまざまな鳴き砂保護活動に取り組んできました。これまでにやってきた主な活動としては、浜辺の清掃、鳴き砂保護の講演会やシンポジウムの開催、中国やタイへの鳴き砂調査団の派遣、浜への流入河川の水質調査や水質浄化、漂着物展の開催、浜の背後地の植林等々があげられます。

なかでも、1997(平成7)年に起こったナホトカ号重油災害では、琴引浜における重油回収作業の中心的な役割を果たし、元通りの美しい浜辺を取り戻すことができました。その功績が認められ、環境庁(当時)から「地域環境保全功労者」の表彰を受けています。



石英の結晶



波できれいに洗われた石英質の砂が広く分布する全長1.8kmの砂浜で、歩くと「キュッキュッ」と音がする「鳴き砂の浜」として知られています。鳴き砂の良好な状態を維持するため、地元住民による清掃活動などの地道な活動が続けられています。海岸には日本海ができるころの海の地層が分布し、1,500万年前の海底で生きていた動物が残した生痕も見られます。浜の背後には最終間氷期(約12万年前)にできた古砂丘があります。琴引浜は国の天然記念物、名勝、その他「日本の渚百選」「日本の白砂青松百選」などに選定されています。近くには琴引浜鳴き砂文化館があり、琴引浜の資料や漂着物の展示の他、鳴き砂体験もできます。

はなれこ

離湖

京都府京丹後市網野町小浜 MAP P.17-②

ひとくメモ

●大規模な古墳が分布

湖畔には砂丘の中から発見された岡1号墳の横穴式石室が移築されています。また、湖周辺には日本海側最大級の前方後円墳もみられます。

●離湖とマブ

江戸時代に網野村湖口小左衛門と島溝川(しまみぞかわ)村の足立久兵衛(あだちきゅうべえ)が新田開発のため、湖水を日本海に流す水路工事に着手し、トンネルを掘る難工事の末、3年の歳月をかけてようやく完成しました。この工事は箱根用水の工事にも匹敵する工事だったといわれ、地元の人はこの水路を「マブ」と呼んでいます。



湖の周囲3.8km、最大水深約7mを誇る、京都府内最大の淡水湖です。かつての湾の入り口が北側の古砂丘、新砂丘と、八丁浜などの砂州の成長により、潟湖(せきこ)になったものと考えられています。潟湖(せきこ)とは、湾や入江が、長年にわたる沿岸流(潮の流れ)や風的作用などにより、土砂で外海と分離された湖のことをいいます。湖底には大型の淡水貝が生息し、湖岸にはヤナギ類が繁茂し、冬期にはカモ類が飛来する等自然豊かな湖です。春は桜の名所としてにぎわいます。

五色浜

京都府京丹後市網野町塩江 MAP P.17-③

ひとくメモ

●海域公園とは

海域公園(2010(平成22)年4月以降の自然公園法の改正により「海中公園」は「海域公園」と呼ばれるようになりました)は、海中の自然資源、景観を保全するための地区です。1970(昭和45)年の自然公園法改正までは陸域しか対象範囲でなかったのですが、改正後、自然の豊かな海域部分の保全を目的として各国立・国定公園内に指定されました。

山陰海岸国立公園内には、五色浜・豊岡・竹野・浜坂・浦富海岸に計6カ所の指定地区があります。



五色浜一帯は岩場の海岸です。波食棚の表面には多数の^{おうけつ}甌穴(ポットホール)が見られ、海岸の東部には「ネタキ」と呼ばれる大岸壁があります。日本海ができる頃の火山活動でできた地層が広がっています。ここには様々な色の礫が含まれていることから「五色浜」と呼ばれています。甌穴(ポットホール)の周辺は海域公園として散歩道などが整備され、岩や潮だまりで海の生物を観察することもできます。

はまづめ

浜詰海岸(夕日ヶ浦)

京都府京丹後市網野町浜詰 MAP P.17-④

ひとくメモ

●木津温泉・夕日ヶ浦温泉

木津温泉は奈良時代の僧、行基が疫病をなおすために発見したとされる温泉で、かつては京都府内で唯一の天然温泉でした。泉質は低張性・アルカリ性の単純温泉で、泉温は約40℃です。北近畿タンゴ鉄道の木津温泉駅の構内には源泉掛け流しの足湯「しらさぎの湯」があり、汽車の待ち時間に温泉を楽しむことができます。

海岸沿いでは「美人の湯」と呼ばれる夕日ヶ浦温泉が湧出しています。夕日ヶ浦地区の旅館、民宿でこの温泉を楽しむことができます。



「日本の夕陽百選」に選ばれた浜詰海岸は夕日ヶ浦とも呼ばれ、夕日の美しい景勝地。京丹後市網野町の木津川河口の東側に位置しています。夕日ヶ浦は元々、海岸東側の入り組んだ岩場を指しますが、今では広く浜詰海岸全体をいうこともあります。

小天橋から浜詰海岸まで、白砂青松の浜が約7kmに渡って続きます。遠浅の砂浜は海水浴に最適で、家族連れに人気です。周辺は温泉旅館が軒を連ね、夕日と温泉の地として、近年たくさんの観光客が訪れています。夏場は水平線に太陽が沈み、夕日に照らされた奇岩のシルエットと波とのコントラストは絶景です。テレビドラマのロケ地としても使用されています。



8、郷村断層ジオサイト

丹後震災の傷跡と震災復興 ～北丹後地震で生じた断層を見ることができるサイト～

郷村断層

京都市京丹後市網野町郷 MAP P.17-⑤



小池地区

地震直後の小池地区



北丹後地震は1927(昭和2)年3月7日午後6時27分に、京丹後市網野町郷を震源として発生したM7.3(兵庫県南部地震と同じ規模)の地震です。死者は2,925人にのぼり丹後地方は壊滅的な被害を受けました。震源に近い峰山町の市街地では家屋の96%が全壊全焼し死亡率は24%に達しました。



倒壊した網野小学校



樋口地区

あさもがわ

ひとくくメモ

●活断層とは

活断層とは、最近の地質時代に繰り返し活動し、今後も活動する可能性がある断層のことです。郷村断層は、初めて科学的な調査が行われ、現在私たちがよく耳にする「活断層」という言葉が、日本で最初に用いられた断層です。この断層の活動周期は約6000年程度と推定されています。



郷村断層の保存建屋。建物のガラス窓から見学が可能。
(京丹後市網野町樋口)

郷村断層は、京丹後市網野町浅茂川西方から京丹後市大宮町くちおおの口大野まで、北北西-南南東方向に延びる全長18kmの地震断層です。1927(昭和2)年に発生した北丹後地震の際に出現した断層で、小池地区では真っ直ぐな道が水平に約2.6mもずれてしまいました。

郷村断層は、東北東-西南西に延びた山田断層とともに動いたこと、地震直後に科学的な調査が行われ「活断層」という用語が日本で最初に用いられたことなどで非常に重要な地質遺産で、1929(昭和4)年には、網野町郷の小池地区と樋口地区、網野町生野内地区の3地点に現れた断層が国の天然記念物に指定され保存されています。

網野町郷の樋口地区では断層が小屋の中に保存されています。ここでの変位量は水平方向に2.75m、垂直方向に60cmで、特に垂直方向の変位がよくわかります。

丹後砂丘

京都府京丹後市久美浜町 MAP P.17-⑥

小天橋



箱石浜



ひとくくモ

●砂丘農業地の取り組み

砂丘地は砂粒の大きさが比較的揃っていて硬さも一定なため、根菜類などが太くまっすぐ育つことができるので、サツマイモや長芋などが育てられています。

また、水はけがよく水や肥料のコントロールがしやすいことから、スイカやメロンなども栽培されています。



京丹後市久美浜町のしょうてんきょう小天橋砂州の先端から東方の網野町の木津川河口付近までを、丹後砂丘といいます。海岸沿いに東西約4.7km、面積約590haの規模があり、京都府内最大の砂丘です。西からしょうてんきょう かずらのハマ はこいしはま小天橋、葛野浜、箱石浜と約8kmにわたり海水浴場が連続し、多くの人が訪れます。広大な砂丘は砂丘農業地として利用されています。

また、トウテイラン（京丹後市の花）など約50種類以上の貴重な海浜植物が自生していて、現在は保全活動が行われています。

エリア&ガイド情報

琴引浜鳴き砂文化館

琴引浜鳴き砂文化館は、鳴き砂をテーマにした文化館です。鳴き砂を接点として、人と自然との関わりや海の環境保全について考え、学ぶ施設です。鳴き砂の体験は雨で砂が湿っていると鳴きませんが、文化館ではいつでも鳴き砂を体験できます。また、浜辺ではできない珍しい装置を使った鳴き砂体験もできます。琴引浜に生息している微小貝や、海浜植物の写真パネルなどを展示しています。

[所] 京都府京丹後市網野町掛津56 [料] 大人300円・小中学生100円
[時] 9～17時(入館は16時30分まで) [休] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
[問] 0772-72-5511



はこいしはま

函石浜遺物包含地

京都府京丹後市久美浜町箱石 MAP P.17-⑦

ひとくくモ

●貴重な海浜植物

箱石浜周辺では、日本特産種のトウテイランをはじめ、ハマゴウ、ハマヒルガオなど50種以上の貴重な海浜植物が自生しています。

昭和30年代までは一帯で美しい景観が保たれていましたが、環境の変化などでその数は少なくなりました。現在はこの豊かな環境を守ろうと保全活動が進められています。



トウテイラン

丹後砂丘のほぼ中央、箱石浜に位置する函石浜遺物包含地は国の史跡に指定されており、東西約800m、南北約500m、面積約44haの広大な遺跡です。出土品などにより、縄文時代から弥生、古墳、平安、室町時代にわたる遺跡だとされています。

箱石浜は古土壌・大山火山灰層を挟む新砂丘と古砂丘とで形成されています。^{さのだにがわ}佐濃谷川は現在、^{かずらの}葛野地区と^{ながら}長柄地区の間を久美浜湾に注いでいますが、最終氷期には直線で日本海に注ぎ、この辺り一帯は良港として栄えたと考えられています。1903(明治36)年には、中国の新王朝(9～23)時代の貨幣である「^{おうもう}王莽の貨泉」が発見され、この地が古代より大陸と深い関係を持ち、交易港として栄えた場所であったことが想像されます。



久美浜湾

京都府京丹後市久美浜町 MAP P.17-⑧

ひとくくモ

●久美浜湾のカキ養殖

久美浜湾におけるカキの養殖は、1943(昭和18)年頃に企業化されたのが始まりです。その後、1959(昭和34)年以降には漁業者が中心となってカキ養殖が行われ、久美浜町の新しい漁業として今日まで発展してきました。久美浜湾は、閉鎖性の強い内湾のために、波荒い日本海に面していながら波静かで、しかもカキが成長するために必要なプランクトンも多く、養殖に適した条件を備えています。カキの他にクルマエビ等の養殖もされています。



久美浜湾(上)と日本海を隔てる小天橋砂州

約2万年前の最終氷期には海面が現在より100m以上も低く、^{さのだにがわ}佐濃谷川、^{かわかみだにがわ}川上谷川、^{くみだにがわ}久美谷川、^{とちだにがわ}栃谷川の4河川が合わさった谷が日本海へつながっていました。最終氷期が終わり海面が上昇し、京丹後市久美浜町葛野から湊宮にかけて形成された砂州によって日本海と隔てられ、周囲約28km、面積約7km²の久美浜湾ができました。この砂州は「^{しょうてんきょう}小天橋」と呼ばれ、夏は海水浴客でにぎわいます。日本海の沿岸流によって運ばれた砂が、久美浜湾の入り口をふさぐように長く延び、「^{あまのはしだて}天橋立」に似ていることからその名が付けました。

かぶとやま

兜山(甲山)

京都府京丹後市久美浜町 MAP P.17-⑨

ひとくメモ

●久美浜湾遊覧船

久美浜湾一帯を、船の上から楽しみませんか？迫力満点のジオスポットが満載！湾からの景色は、普段とは一味違う感動があります。船長が久美浜湾の歴史や文化、自然について分かりやすく説明しますので、「久美浜をもっと知りたい」という人にもオススメ！穏やかな久美浜湾の豊かな自然を体で感じられます。

*中学生以上2,000円、小学生以下1,000円／定員10名
(問)バーベキューガーデン無人島
TEL.0772-82-0045



久美浜湾の南東には標高191mの円錐形をした兜山(甲山)がそびえています。この山は地層の中に入りこんだ固い流紋岩が、その後周囲の地層が侵食された結果取り残されてできました。付近では流紋岩の風化してできた土の中からそろばん玉石が採取されました。兜山山頂の展望台からは、久美浜湾や小天橋^{しょうてんきょう}の絶景が展望できます。逆に、小天橋から見えるきれいな円錐形の山体は、潟湖である久美浜湾を前景とした美しい景観を形づくっています。

10、磯砂山周辺ジオサイト

花崗岩帯の地形と羽衣伝説 ～花崗岩の丘陵地に昔ながらの里山の風景が広がるサイト～

おとめ

乙女神社

京都府京丹後市峰山町大路 MAP P.17-⑩

いさなごさん

磯砂山付近では羽衣伝説が伝わっており、天女が水浴びをしたと言われる「女池」や、天女を祀る「乙女神社」があります。乙女神社はお参りすると美しい娘を授かると言われています。また、地元の京丹後市大路地区では、今でも昔ながらの七夕行事が営まれています。

